

会報

日本食品化学学会編集委員会からのお知らせ

編集委員会（事務局）の移動

2021年度第一回理事会で、本年度中の編集委員長の交代が承認されたことにもない、これまで「国立医薬品食品衛生研究所生薬部内」にあった、日本食品化学学会編集委員会（事務局）を、2021年5月1日より、「星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内」に移動することになりました。従いまして、

A：2021年4月30日までの投稿は、従来通り、

〒210-9501 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-26 国立医薬品食品衛生研究所生薬部内 日本食品化学学会編集委員会 宛てで投稿いただきますが、

B：2021年5月1日からは、

〒142-8501 東京都品川区荏原2-4-41 星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内 日本食品化学学会編集委員会 宛てで投稿下さい。(e-mail: jpnjfc@gmail.com)

ただし、Aで投稿された論文等は、合田幸広現編集委員長の下で、最後まで審査が行われますので、問い合わせ並びに再投稿原稿等も、「国立医薬品食品衛生研究所生薬部内」宛てで、送付を御願いたします。

一方で、Bで投稿された論文等は、穂山浩現副編集委員長（新編集委員長）の下で、審査が開始されますので、問い合わせ並びに再投稿原稿等は、「星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内」宛てで、送付を御願いたします。

なお、2021年28巻2号までに掲載される論文等は、合田幸広現編集委員長の下での審査となり、同巻3号以降の論文は、穂山浩新編集委員長の下での審査として取り扱います。

日本食品化学学会 2021 年度第 1 回理事会 議事録

日 時： 2021 年 3 月 6 日（土） 13:00 ～ 15:00

場 所： Zoom を利用したハイブリッド会議（アットビジネスセンター PREMIUM 新大阪）

出 席： 小関 良宏、合田 幸広、辻村 英雄、井之上 浩一、穂山 浩、井上 健夫、小川 久美子、
奥村 克純、日下部 哲也、佐藤 恭子、中江 大、矢野 竹男、良永 裕子、鰐淵 英機、
伊藤 美千穂
（以上 理事 14 名、監事 1 名）

欠 席： 松浦 寿喜、尾崎 麻子（理事 1 名：委任状 1 通／議長）

議 案：

1. 2021 年度 第 27 回総会・学術大会について
2. 2020 年度 事業報告書案および決算報告書案の作成（総会提出議案）
3. 2021 年度 事業計画書案および収支予算書案の作成（総会提出議案）
4. 第 23 回 奨励賞受賞者の決定
5. 第 16 回 論文賞受賞者の決定
6. 日食化誌の予定と進捗の報告
7. 名誉会員の推薦（総会提出議案）
8. 評議員会提出議案について
9. 次々期（2023 年度）学会長の総会への推薦（総会提出議案）
10. 2022 年度シンポジウム専門担当理事の選任
11. 次期理事長候補、次期副理事長候補について（総会提出議案）
12. 編集委員長及び編集事務局の交代について
13. 次期理事・監事候補および役割分担について（総会提出議案）
14. その他（その他の総会提出議案、本会の運営に関すること）

1. 2021 年度 第 27 回総会・学術大会について

(1) 第 27 回総会・学術大会の開催

事務局より総会・学術大会の内容および準備状況について説明があった。

学 会 長：小川 久美子（国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部長）

日 時：2021 年 6 月 10 日（木）～6 月 11 日（金）

場 所：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市幸区堀川町 66 番地 20）

学会長講演：「リスク評価の潮流と展望」 国立医薬品食品衛生研究所 病理部長 小川 久美子

特別講演①：「天然物由来、錠剤、カプセル形状食品の品質保証」 国立医薬品食品衛生研究所 所長 合田 幸広

特別講演②：「食のデータサイエンス」 奈良先端科学技術大学院大学 教授 金谷 重彦

特別講演③：「食品安全行政の現状と課題（仮題）」 厚生労働省 食品基準審査課（交渉中）

奨励賞受賞者講演

一 般 発 表：口頭およびポスター（演題募集中）

関 連 行 事：①若手優秀発表賞、②企業展示（詳細検討中）

参 加 費：学術大会 会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円

(2) 第 27 回総会・学術大会実行委員（23 名）の承認

学術大会運営の為、下記の実行委員の推薦があり、承認された。

小川 久美子（学会長）（国立医薬品食品衛生研究所） 石井 雄二（実行委員長）（国立医薬品食品衛生研究所）

高須 伸二（実行副委員長）（国立医薬品食品衛生研究所） 穂山 浩（国立医薬品食品衛生研究所）

佐藤 恭子（国立医薬品食品衛生研究所） 中江 大（東京農業大学）

井之上 浩一（立命館大学） 藤田 和弘（日本食品分析センター）

秋場 高司（アサヒグループ食品株式会社） 本村 陽介（株式会社ウエノフードテクノ）

指宿 大悟（サントリー MONOZUKURI エキスパート株式会社） 瀧川 義澄（アジレント・テクノロジー株式会社）

金城 輝則（アジレント・テクノロジー株式会社） 古庄 義明（ジーエルサイエンス株式会社）

植田 泰輔（シグマアルドリッチジャパン合同会社） 四柳 雄一（株式会社島津製作所）

原田 修一（林純薬工業株式会社） 水井 浩司（富士フィルム和光純薬工業株式会社）

今立 恵美（株式会社食品化学新聞社） 羽田 三奈子（アナリティクセンス株式会社）

清水 亮輔（日本食品添加物協会） 中川 誠（三栄源エフ・エフ・アイ株式会社）

森本 隆司（三栄源エフ・エフ・アイ株式会社）

2. 2020 年度 事業報告書案および決算報告書案の作成（総会提出議案）

下記内容で総会への提出が承認された。

2-1. 事業報告書案

(1) 第 26 回総会・学術大会の記録

学 会 長：金谷 重彦（奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授）

日 時：2020 年 8 月 31 日（月）

開 催 方 法：誌上開催

奨励賞受賞者：「食品中の残留農薬等の分析法開発に関する研究」

菊地 博之（国立医薬品食品衛生研究所食品部 主任研究官）

一 般 発 表：（口頭）10 題、（ポスター）44 題

参 加 者 数：87 名（内訳：会員 75 名、非会員 2 名、実行委員 10 名）

関 連 行 事：① 評議員会

② 編集委員会

③ 若手優秀発表賞

参 加 費：学術大会 会員・要旨集（冊子）4,000 円、会員・要旨集（PDF）2,500 円、非会員 6,000 円

(2) ifia JAPAN 2020 食の安全・科学フォーラム 第19回セミナー & 国際シンポジウムの開催中止
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。

(3) 第36回食品化学シンポジウムの開催

担 当 理 事： 日下部 哲也（独立行政法人医薬品医療機器総合機構国際業務調整役）

テ ー マ： 食品行政の動向と機能性表示食品を取り巻く環境

日 時： 2020年12月2日（水）13:30-17:00

開 催 形 式： Zoom ウェビナーで実施

講 演 (1) 食品安全委員会における食品リスク評価の動向
内閣府食品安全委員会委員 川西 徹

講 演 (2) 食品添加物の最近の動向

国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 第一室長 多田 敦子

講 演 (3) 機能性表示食品制度発足から5年が経過して

消費者庁食品表示企画課 保健表示室 課長補佐 久保 陽子

講 演 (4) アカデミアにおける食品の臨床研究支援の実施

大阪市立大学医学部附属病院 臨床研究・イノベーション推進センター 藤井 比佐子

講 演 (5) 健康な食生活に向けた機能性表示食品の活用

株式会社 明治 乳酸菌研究所 栄養機能研究部 栄養機能 G 夏目 みどり

参 加 者 数： 107名（会員71名、非会員29名、講師5名、事務局2名）

参 加 費： 無料

(4) 日本食品化学学会誌 第27巻の発行

第27巻1号の発行 発行日：2020年4月30日 発行部数：950部

論文2編 ノート3編 総頁数：39頁

第27巻2号の発行 発行日：2020年8月31日 発行部数：950部

論文6編 ノート4編 資料1編 総頁数：81頁

第27巻3号の発行 発行日：2020年12月25日 発行部数：950部

論文3編 ノート5編 資料2編 総頁数：73頁

(5) 理事会及び各種委員会の開催

理事会：2回（書面理事会1回）、評議員会（書面）：1回、編集委員会（書面）：1回

(6) 会員数

2020年12月31日現在：個人会員558名、法人会員63法人、名誉会員14名

2-2. 2020 年度決算報告書案の作成

2020 年度決算報告書 (案)

(2020 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日)

収 入			支 出		
	予算金額	決算金額		予算金額	決算金額
会費 (個人)	1,917,000 円	1,695,000 円	学術雑誌発行費	3,500,000 円	4,143,405 円
会費 (法人)	2,400,000 円	2,400,000 円	学術大会費	400,000 円	197,990 円
会費 (賛助)	0 円	0 円	シホ°ジウム費	200,000 円	90,876 円
投稿料	840,000 円	740,000 円	表彰費	280,000 円	281,820 円
広告料	1,010,000 円	1,109,670 円	会議費	250,000 円	181,060 円
雑収入	270,000 円	213,759 円	ホムハ°-ジ°運営費	210,000 円	215,496 円
			旅費・交通費	400,000 円	221,020 円
			印刷費	170,000 円	164,183 円
			郵送費	550,000 円	376,394 円
			振替手数料	90,000 円	111,495 円
			事務費	400,000 円	365,172 円
			予備費	200,000 円	0 円
(収 入)	(6,437,000 円)	(6,158,429 円)	(支 出)	(6,650,000 円)	(6,348,911 円)
前期繰越金	4,620,355 円	4,620,355 円	次期繰越金	4,407,355 円	4,429,873 円
合 計	11,057,355 円	10,778,784 円	合 計	11,057,355 円	10,778,784 円

2021 年 2 月 16 日

事務局長 井之上 浩



.....

会計監査報告

上記の決算書を承認するとともに、会則に従って適正に執行されたと認めます。

2021 年 2 月 16 日

監 事 伊藤 美千穂



尾崎 麻子



3. 2021 年度 事業計画書案および収支予算書案の作成（総会提出議案）

下記の内容で総会への提出が承認された。

3-1. 事業計画書案

(1) 第 27 回総会・学術大会の開催

学 会 長：小川 久美子（国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部長）

日 時：2021 年 6 月 10 日（木）～ 6 月 11 日（金）

場 所：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市幸区堀川町 66 番地 20）

学会長講演：「リスク評価の潮流と展望」 国立医薬品食品衛生研究所 病理部長 小川 久美子

特別講演①：「天然物由来、錠剤、カプセル形状食品の品質保証」 国立医薬品食品衛生研究所 所長 合田 幸広

特別講演②：「食のデータサイエンス」 奈良先端科学技術大学院大学 教授 金谷 重彦

特別講演③：「食品安全行政の現状と課題（仮題）」 厚生労働省 食品基準審査課（交渉中）

奨励賞受賞者講演：3 月理事会で確定

一 般 発 表：口頭およびポスター（演題募集中）

関 連 行 事：①若手優秀発表賞、②企業展示

参 加 費：学術大会 会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円

(2) 第 37 回食品化学シンポジウムの開催

担 当 理 事：矢野理事

テ ー マ：キーワード案／持続可能な開発・発展、食品安全・表示行政など

日 時：2021 年 11 月～12 月

場 所：東京都内を予定

定 員：150 名程度

会 費：会員 3,000 円、非会員 5,000 円（予定）

(3) ifia JAPAN 2021 食の安全・科学フォーラム 第 20 回セミナー&国際シンポジウム

テ ー マ：食品の輸出入拡大と穀物の衛生管理

Expansion of food imports and exports and grain sanitation management

主 催：日本食品化学学会、日本食品微生物学会、日本食品衛生学会

共催(予定)：日本食品衛生協会、食品産業センター、食品化学新聞社

協賛(予定)：JETRO、日本食品科学工学会、日本調理科学会、ILSI JAPAN、日本食品添加物協会

日 時：令和 3 年 5 月 14 日（金） 10 時 00 分～16 時 40 分（受付開始 9 時 30 分）

場 所：パシフィコ横浜（ホール C・D）

定 員：60 名（事前申し込み締め切り 5 月 7 日）

演題及び講師：

第一部 食品の輸出入に伴う規格基準と国際整合性（質疑応答は随時）

農林水産物・食品の輸出促進事業について（米と米粉を例にして）

農林水産省政策統括官付 農産企画課 米穀貿易企画室 担当者

農林水産物の残留農薬対策と国際整合性

厚生労働省医薬・生活衛生局 食品基準審査課 残留農薬等基準審査室 井上 隆弘

食肉の輸出拡大に向けた取り組み（仮）

厚生労働省医薬・生活衛生局 食品監視安全課課長補佐 担当者

第二部 穀物の衛生管理

穀物を中心とした食物アレルギー表示制度の現状

国立医薬品食品衛生研究所 生化学部第 3 室長 安達 玲子

穀物中の残留農薬分析について

一般社団法人残留農薬研究所 参事 坂 真智子

(4) 日本食品化学学会誌 第28巻の発刊

第28巻1号	2021年	4月発刊予定
第28巻2号	2021年	8月発刊予定
第28巻3号	2021年	12月発刊予定

(5) 理事会および各種委員会の開催

理事会： 1回、 評議員会： 1回、 編集委員会： 1回

3-2. 収支予算書案

(2021年1月1日～2021年12月31日)

収 入			支 出		
項目	単価	予算金額	項目	数	予算金額
個人会員 (558名)	¥3,000	¥1,674,000	学術雑誌発行費	3	¥4,150,000
個人会員 (滞納分)	¥3,000	¥171,000	学術大会費	1	¥400,000
法人会員 (63社78口)	¥30,000	¥2,340,000	シンポジウム費	1	¥200,000
法人会員 (滞納分)	¥30,000	¥0	表彰費		¥480,000
賛助会員 (0社)	¥30,000	¥0	会議費		¥200,000
投稿料		¥740,000	ホームページ費		¥220,000
広告料		¥1,000,000	旅費・交通費		¥200,000
雑収入		¥300,000	印刷費		¥100,000
			郵送費		¥380,000
			振替手数料		¥110,000
			事務費		¥200,000
(収入)		¥6,225,000	(支出)		¥6,640,000
前期繰越		¥4,429,873	次期繰越金		¥4,014,873
合計		¥10,654,873	合計		¥10,659,873

4. 第23回 奨励賞受賞者の決定

選考の結果、以下の3名に第23回奨励賞を授与することが決定された (五十音順)。

- 阿部 裕 (国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 主任研究官)
「食品用器具・容器包装の分析法に関する基礎的および発展的研究」
- 伊藤 里恵 (星薬科大学 薬品分析化学研究室 講師)
「食料試料中の残留マイコトキシンの分析法の構築および汚染実態調査」
- 志田 (齊藤) 静夏 (国立医薬品食品衛生研究所 食品部 主任研究官)
「茶中の残留農薬一斉分析法の確立に関する研究」

5. 第16回論文賞、(広告主) 論文賞の決定

合田編集委員長より編集委員から推薦された候補について説明がなされ、選考の結果、第16回論文賞として、下記論文に授与することが決定された (学会誌掲載順)。

- 「HPLC determination of quercetin using relative molar sensitivity to methylparaben as a single reference」
Yuzo Nishizaki, Kyoko Ishizuki, Naoko Masumoto, Atsuko Tada, Naoki Sugimoto, Kyoko Sato

Vol. 27 (2), 42-52(2020)

- 「Hydrolysate of highly digestible phosphorylated buckwheat major allergen Fage e 2 attenuates allergic reactions in Fage e 2-sensitized mice」

Ahmad M. Al Athamneh, Yuta Suzuki, Soichiro Nakamura, Shigeru Katayama

Vol. 27 (2), 67-75(2020)

合田編集委員長より広告主論文賞について株式会社島津製作所から申請があり、編集委員からの候補について説明がなされ、下記論文に授与することが決定された。

- 「相対モル感度を用いた single-reference HPLC 法が定量値に影響を及ぼす要因の検討と機能性表示食品中のルテイン定量への応用」

酒井有希、増本直子、西崎雄三、大槻崇、松藤寛、杉本直樹、佐藤恭子

Vol. 27 (3), 123-134(2020)

6. 日食化誌の予定と進捗の報告

合田編集委員長より投稿および審査状況は順調であることが報告された。

7. 名誉会員の推薦（総会提出議案）

一色賢司氏、山崎裕康氏を名誉会員として推薦することが決定された。

8. 評議員会提出議案について

以下の議案を提出することが決定された。

- 本会の会務・事業などに関する意見など

9. 次々期（2023年度）学会長の総会への推薦（総会提出議案）

複数の方の名前があり、それぞれの方に打診をし、総会までに、候補者を絞り込むことが、承認された。

10. 2022年度シンポジウム専門担当理事の選任

良永理事が2022年度シンポジウム担当理事に選任された。

11. 次期理事長候補、次期副理事長候補について（総会提出議案）

次期理事長候補として合田副理事長を候補とすることが互選により決定された。

次期副理事長候補について、良永理事、鰐淵理事が指名された。

12. 編集委員長及び編集委員会事務局の交代について

編集委員長の交代について協議が行われ、28巻2号まで合田副理事長が担当し、第28巻3号より穂山理事（現副編集委員長）が担当していくこととなった。

また、編集委員長交代にともない、編集委員会事務局についても、適切な時期に移設することが承認された。

13. 次期理事・監事候補および役割分担について（総会提出議案）

以下の候補者を次期理事・監事として推薦することとした。

（任期：2022年1月1日～2023年12月31日）

	役職	氏名	役割分担	所属・役職
1	理事長	合田 幸広		国立医薬品食品衛生研究所所長
2	副理事長	良永 裕子	2022年度 シンポジウム	麻布大学生命・環境科学部教授
3	副理事長	鰐淵 英機		大阪市立大学大学院医学研究科教授
4	理事	穂山 浩	編集委員長	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
5	理事	伊藤 美千穂		京都大学大学院薬学研究科准教授
6	理事	井之上 浩一	事務局長	立命館大学薬学部教授
7	理事	小川 久美子	2021年度 学会長	国立医薬品食品衛生研究所病理部長
8	理事	日下部 哲也		独立行政法人医薬品医療機器総合機構 国際業務調整役
9	理事	佐藤 恭子	食の安全・科学 フォーラム	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部長
10	理事	中江 大		東京農業大学応用生物科学部教授
11	理事	東田 千尋		富山大学和漢医薬学総合研究所教授
12	理事	船見 孝博		三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 執行役員第一事業部長
13	理事	松浦 寿喜		武庫川女子大学生生活環境学部教授
14	理事	松藤 寛	2022年度 学会長	日本大学生物資源科学部教授
15	理事	矢野 竹男	2021年度 シンポジウム	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
1	監事	尾崎 麻子		大阪健康安全基盤研究所衛生化学部主幹研究員
2	監事	鳥羽 真由子		サントリー MONOZUKURI エキスパート株式会社 品質保証本部安全性科学センター課長

14. その他（その他の総会提出議案、本会の運営に関すること）

特になし。

以上

第 48 回日本毒性学会学術年会

会 期： 2021 年 7 月 7 日（水）～ 7 月 9 日（金）

会 場： 神戸国際会議場
〒 650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1
URL： <https://kobe-cc.jp/ja/facilities/conference-center/>

神戸商工会議所・アリストンホテル
〒 650-8543 神戸市中央区港島中町 6-1

年 会 長： 福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社）

テ ー マ： Beyond the crisis - 生命の存続に貢献する毒性学

参加登録と演題登録：

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

・演題登録：2021 年 1 月 20 日（水）～ 3 月 5 日（金）（予定）

・事前参加登録：2021 年 1 月 20 日（水）～ 5 月 10 日（月）（予定）

特 別 企 画： 年会長招待講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、キャリア形成支援プログラム、市民公開セミナーを予定しております。

年会事務局： Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社
事務局長：大塚 博比古、事務局次長：吉田 唯真、林 良太
〒 251-0012 神奈川県藤沢市村岡東二丁目 26 番地 1
E-mail: secretariat@jsot2021.jp

年会ホームページ：
<http://jsot2021.jp/>

第 25 回腸内細菌学会学術集会 (ハイブリット開催)

■メインテーマ：人生 100 年時代と腸内フローラ
～ヒトの一生における腸内フローラと健康の関係～

■大会長：阿部 文明（森永乳業（株））

■会 期：2021 年 6 月 1 日（火）・2 日（水）

■会 場：タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀 4-1-1）
※現地開催および web によるライブ配信予定

■事前参加登録・オンライン参加登録費：

（事前参加登録期間：2021 年 2 月 1 日（月）～5 月 20 日（木））

2/1～4/30：会員 7,000 円 一般 11,000 円 学生 1,500 円（事前登録）

5/1～5/20：会員 8,000 円 一般 12,000 円 学生 1,500 円（事前登録）

※当日参加は、会員 9,000 円 一般 13,000 円 学生 2,000 円

■大会ホームページ：<https://bifidus-fund.jp/meeting/index.shtml>

■お問い合わせ先：公益財団法人腸内細菌学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-12

TEL: 03-5319-2669 FAX: 03-5978-4068 e-mail: jbf@ipecc-pub.co.jp

※プログラムは変更になる可能性がありますのでご了承下さい。

【6 月 1 日（火）】

- 9:55～10:00 開会の挨拶
- 10:00～12:00 一般演題 A 口頭発表（若手枠）※優秀発表賞選考対象演題
一般演題 B 口頭発表（一般枠）
- 13:15～14:30 財団 40 周年記念式典および記念講演
坂口 志文（大阪大学免疫学フロンティア研究センター）
「制御性 T 細胞による免疫応答制御」
- 14:30～15:20 特別講演 松本 哲哉（国際医療福祉大学）
「COVID-19 を取り巻く状況の変化 – 新たな知見を含めて –」
- 15:35～16:30 研究奨励賞授賞式および受賞講演
- 16:40～17:40 海外特別講演
John F. Cryan（University College Cork, Ireland）

【6月2日（水）】

- 10:00 ~ 12:00 **シンポジウム 1**
『人の一生と腸内フローラ：乳児、成人、高齢者における腸内フローラと健康』
 - ・乳 児：片山 高嶺（京都大学）
 - ・児 童：中山 二郎（九州大学）
 - ・成 人：小田卷俊孝（森永乳業（株））
 - ・高齢者：佐治 直樹（国立長寿医療研究センター）
 - ・高齢者：内藤 裕二（京都府立医科大学）

- 13:30 ~ 14:20 **教育講演**
遠藤 明仁（東京農業大）
「*Lactobacillus* 属のゲノム情報に基づく再分類」

- 14:20 ~ 16:20 **シンポジウム 2 『感染症と腸内フローラ・腸管免疫』**
 - ・長谷 耕二（慶應義塾大学）
 - ・大野 博司（理化学研究所）
 - ・國澤 純（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）
 - ・北澤 春樹（東北大学）
 - ・藤原 大介（キリンホールディングス（株））

- 16:20 ~ 16:30 閉会の辞

市民公開講座 『健康になる食事と腸内細菌』（期間限定オンデマンド配信予定）

- ・福田 真嗣（慶應義塾大学先端生命科学研究所）
「腸内環境に基づく層別化医療・ヘルスケアがもたらす未来」
- ・吉野 正則（（株）日立製作所）
「いま、未来の子供たちにできること、便からわかる母子の健康」

以上

公益財団法人日本食品化学研究振興財団 令和3年度助成決定について

公益財団法人日本食品化学研究振興財団（理事長 清水 孝重）は、次のとおり令和3年度助成金交付対象者（所属・職名は申請時）を決定しましたのでお知らせいたします。

研究助成採択件数および金額

一般研究	8件	計	400万円
課題研究	7件	計	350万円
合計	15件		750万円

前期シンポジウム開催等助成件数および金額

3件	計	125万円
----	---	-------

○一般研究

1. 既存食品添加色素を用いた胚移植の操作性及び視認性の向上
（山口大学共同獣医学部 助教 今井 啓之）
2. 単純糖質嗜好性抑制作用を有する希少糖の探索とその応用
（京都大学大学院農学研究科 助教 松居 翔）
3. 食品添加物の動物実験を用いない安全性評価の Systematic review に関する研究
（国立医薬品食品衛生研究所安全性予測評価部 室長 小島 肇）
4. ミカン属植物に含まれるアルカロイドの分析とメタボローム解析
（東京農工大学大学院工学研究院 特任助教 辻本 恭）
5. メタボロミクスを用いた糖アルコールの糖代謝改善メカニズムの解明
（京都府立医科大学大学院医学研究科 病院助教 中西 尚子）
6. ヒト iPS 細胞由来骨格筋細胞を用いた食品添加物ビタミン類の筋萎縮抑制効果に関する研究
（東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 山内 祥生）
7. ナツメグ成分 Malabaricone C による脂質メデイエーター合成阻害と慢性炎症性疾患予防効果
（岡山県立大学保健福祉学部 教授 山本 登志子）
8. 蛍光標識人工甘味料の創製と安全性研究への応用
（神戸学院大学薬学部 助教 小野寺 章）

○課題研究

1. カラメル色素Ⅲ・Ⅳに含まれる 4-Methylimidazole の消化管上皮細胞への影響
（日本薬科大学 講師 瀧沢 裕輔）
2. 人工甘味料の摂取により活動し、その嗜好を駆動する神経細胞の全脳マッピング
（東京医科歯科大学医歯学総合研究科 助教 田中 大介）
3. ミョウバンによる腸管上皮損傷に伴う炎症・アレルギー誘導性損傷関連分子の放出の解析と免疫学的安全性評価の検討
（日本医科大学 講師 若林 あや子）
4. 食用油中シス体カロテノイドの安定性評価と安定性向上に最適な抗酸化物質の選定
（名城大学理工学部 研究員 村上 和弥）
5. 安心して在宅でトロミ剤を提供するためのトロミ度計測マドラーの開発
（岩手医科大学 准教授 黒瀬 雅之）
6. 食用昆虫の栄養評価ならびにビタミン B₁₂ アナログの安全性に関する研究
（鳥取大学農学部 助教 美藤 友博）
7. 食用昆虫タンパク質の生体内消化性および食品加工時の物性・抗菌性に及ぼす影響
（北里大学獣医学部 講師 落合 優）

○(前期) シンポジウム開催等助成

1. 食品ハイドロコロイド研究会
講座（セミナー、シンポジウム及び国際 Mini-Sympo）
2. 日本ポリフェノール学会 第 14 回学術集会
基調講演、シンポジウム及びポスターセッション
3. 日本食品化学学会 第 27 回総会・学術大会

日本食品化学学会誌投稿規定

(2020年5月 改正)

日本食品化学学会誌 (Japanese Journal of Food Chemistry and Safety, 略名: 日食化誌) —以下“学会誌”は、学会員の食品に関連関与する化学物質の化学、安全、有用性、法律、経済、社会、歴史、行政、統計などに関する研究・調査結果を掲載することを目的とする学術論文誌であります。学会誌は、総説、論文、ノート、資料などの他、学会連絡事項等を掲載します。学会員の投稿原稿は複数の査読者の意見を基に編集委員が評価し、その採否等は編集委員会(以下、委員会)が行います。

学会誌には食品添加物、残留農薬あるいは食品汚染物の調査データであっても学術的価値のあるものは論文として掲載します。ただし、その際、調査数が少なかったり、系統だった調査が行われていない場合には返却またはノート扱いとする場合があります。また、動物実験のネガティブデータも掲載しますが、投与量や実験方法等が不適當なものはお断りする場合があります。

I 学会誌投稿等の原則

- 1 会則第9条3項に基づき、学会誌へ投稿する者の筆頭著者並びに責任著者は学会員(個人会員及び法人会員を所属名とする者)である必要があります。ただし、委員会が依頼した原稿は除きます。

責任著者 (Corresponding author) は、連絡者として「投稿原稿の表紙」を記載し、論文の代表者として、研究が日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約する署名を行います。責任著者は、和文論文の場合、論文1ページ目の欄外に、責任著者(連絡先)として日本語で、Corresponding authorとして英語で、住所と氏名が記載されます。英語論文の場合には、1ページ目に Corresponding authorとして英語で、和文抄録のページに、責任著者(連絡先)として日本語で、住所と氏名が記載されます。

なお、論文が複数のグループで行われている場合を鑑み、責任著者は、2名まで認めますが、その場合どちらかが、連絡者兼代表者として、「投稿原稿の表紙」を記載し、代表者署名を行って下さい。

- 2 会誌への投稿は有料とします。ただし委員会が依頼した原稿は除きます。なお、受付の順番を待たず、直近発行の学会誌掲載を希望される場合は、別途その実費を支払っていただきます。
- 3 原稿の種類は下記に示す通りです。論文およびノートは、他の出版物に既に発表、あるいは投稿されていないものに限ります。刷り上がりは本文和文で1ページ2段組みで26字×51行となります。従って1ページ当たり最大2652文字となります。
 - 1) 総説 (Review): 調査・研究論文の総括、解説等。編集委員会が依頼する場合があります。
 - 2) 論文 (Regular article): 科学的研究・調査の報告。
 - 3) ノート (Note): 研究の概略を迅速に発表、または部分的調査・研究の発表。
 - 4) 資料 (Research letter): 調査または統計等をまとめた報告(その結果を十分に論じたものは総説、論文とします)。学会員に参考となる記録やまとめ、学会員に役立つ行政、判例あるいは海外資料。委員会が提供する場合があります。内容によっては投稿料を求めません。
 - 5) 会員の意見: 食品化学に関する意見、掲載論文に関する意見等。原則として投稿料を求めません。
 - 6) その他: 編集委員会にご相談下さい。
- 4 投稿原稿執筆にあたっては、とくに形式を定めません。要は読み易く、文献として理解しやすい様式および記述でお願いします。ただし、論文のタイトルは、分かり易いものとし、原則として副題は付けなくて下さい。また、引用文献の記述には注意して下さい。(II-3) 引用文献参照)
- 5 論文の投稿は、和文でも英文でも構いません。図表も同様です。投稿原稿には英文抄録を原稿として付して下さい。また、英文論文の場合は、英文抄録の和文も別途添付して下さい。抄録は、一般学術雑誌の例で作成されて構いません。しかし本誌では英文投稿の場合、和文で会員が目を通すのに十分容易なように、また和文投稿ながら外国から文献請求があると予想される英文抄録の場合、これら抄録はより詳しく本文の主要図表も引用し、1~2頁分を使用しても構いません。

- 6 和文論文への英文抄録には、日本語訳を付けて下さい。ただし訳文の掲載は致しません。
- 7 投稿原稿には別に示す表紙を A4 版(縦)の大きさにコピーして、所定事項を記入の上、本文用と抄録用それぞれの原稿の表紙として付して下さい。所定事項をワープロで作成したものを表紙として使用しても結構です。
- 8 掲載に際し、軽微な修正は委員会の判断にご一任下さい。もし投稿原稿の意を害した場合、その旨を寄せていただければ次号に掲載します。
- 9 注意：二重投稿などの不正が疑われた場合には日本食品化学学会誌倫理調査委員会規則に則った調査が行なわれ、その結果に基づき日本食品化学学会倫理規定に従う処分がなされることがあります。

II 投稿原稿の様式

1 原稿の記し方と構成

- 1) 緒言、研究方法、結果など見出しの項には I, II, III…の番号を付して下さい。以下の番号には通例 1, 2, 3 …; 1), 2), 3) …; (1), (2), (3) …として下さい。
- 2) 文献記述は次のことを守って下さい。
全文献共、同一形式(II-3) 引用文献参照)に従って、原則として英文記載として下さい。
- 3) キーワードは和文、英文の両方で 5 句以内をお願いします。

2 表および図

- 1) 原稿本文中に表、図および写真を挿入する記述箇所、右横に挿入箇所を朱色で明示して下さい。
- 2) 図と写真のタイトルは図および写真の下とします。表のタイトルは表の上とします。なお、図表の下側に本文と併読しなくても理解できる程度に簡単な説明文が記述されていることが望ましいとします。
- 3) 図、表はそのまま製版できるようにプリントまたは墨書してください。なお、印刷に際して、改めてトレースする必要のある図・表については、その実費を請求いたします。
- 4) 図中の文字を活字で表したいときは、活字挿入希望を鉛筆で記して下さい。この場合活字挿入に必要な版下作成の実費は請求いたします。
写真：硬調にプリントした光沢仕上げのものを 1 枚ずつ A4 版の厚手の上質紙に軽く貼り付けて下さい。必要あれば原稿には希望する縮尺を付記して下さい。カラー印刷等でアート紙の使用が必要な場合は実費を請求致します。

3 引用文献

- 1) 引用文献は 1), 2) で出現順に示し、最後に一括して番号順に列記する。ibid. や idem は用いない。
- 2) 欧文誌の引用：例①のとおりとする。雑誌名は略記名の定められているもの以外略さない。略記名が不明の場合は、略記せず完全誌名を記述する。
例① Viberg, H., Fredriksson, A., Eriksson, P.: Neonatal exposure to polybrominated diphenyl ether (PBDE 153) disrupts spontaneous behaviour, impairs learning and memory, and decreases hippocampal cholinergic receptors in adult mice. *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, **192**, 95-106 (2003).
- 3) 和文誌の引用：誌名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧書きで付記する。正式な欧文誌名のないものは欧文誌名を付けてはならない。また、欧文誌名は、その略記名が定められているときは略記しても良いが、略記名が不明の場合は略記せず完全誌名を記述する。例②を参考にする。なお、英文標題がないものは標題をローマ字書きし、ローマ字のあとに丸括弧に入れて翻訳標題を付記する。
例② Yoshimitsu, M., Hori, S.: Comparison of the DNA extraction methods from potato snacks and detection of genetically modified potato in snacks. *Nippon Shokuhin Kagaku Gakkaishi (Jpn. J. Food Chem.)*, **10**, 165-170 (2003).
- 4) 欧文誌、和文誌とも、巻数を表記しない雑誌では、巻数の位置に年号を太文字で記載する。
- 5) オンラインジャーナルの場合、ページ付けがある場合には、2)-4) に従う。ページ付けが無く論文番号がある場合には、巻数を記載し、その後に論文番号を記載する。

- 例③ Mabon, S. A., Misteli, T. : Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. *PLoS Biol.*, **3**(11), e374 (2005).
- 6) オンラインで事前公開された論文等で、まだ巻号、ページ、論文番号等が決定していない場合、あるいはこれらのものでない場合には、分かっている情報を記載し、その後に DOI を記載し、引用日について括弧書きで追記する。
- 例④ Xiao, B., Huang, X., Wang, Q., Wu, Y., : Beta-asarone alleviates myocardial ischemia-reperfusion injury by inhibiting inflammatory response and NLRP3 inflammasome mediated pyroptosis. *Biol., Pharm. Bull.*, Article ID: b19-00926, doi:10.1248/bpb.b19-00926 (cited 2020-04-28).
- 7) 欧文単行本の引用：図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑤、⑥、全体を引用する場合は例⑦を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。
- 例⑤ Porter, L. J., “The Flavonoids: Advances in research since 1986”, Harborne, J. B. ed., London, Chapman & Hall, 1994, p. 23-53. (ISBN 0-412-48070-0)
- 例⑥ Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives 55th Session ed., “Compendium of food additive specifications, Addendum 8”, Rome, FAO, 2000, p. 49-50. (ISBN 92-5-104508-9)
- 例⑦ Watson, C. ed., “Official and standardized methods of analysis”, 3rd Ed., London, The Royal Society of Chemistry, 1995.
- 8) 和文単行本の引用：和文単行本を引用する場合、書名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文書名を記す必要があれば翻訳し、ローマ字書きのあとに丸括弧に入れて付記する。翻訳本を引用する場合には、必ず著者及び原書名を記述し、翻訳者と翻訳書名を丸括弧に入れて付記する。図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑧～⑫、全体を引用する場合は例⑬～⑮を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。ただし、和文原稿において、団体著者、団体編者の場合や、書名がローマ字書きをすると意味がわかりにくくなるものは、和文で記載してもよい。例⑯～⑲を参考にする。
- 例⑧ Shigematsu, Y., “Saishin No Masusupektorometri (Modern mass spectrometry)”, Niwa, T. ed., Kyoto, Kagaku Dojin, 1995, p. 80-92. (ISBN 4-7598-0282-7)
- 例⑨ Suzuki, I. et al. eds., “Shokuhin Tenkabutsu Koteisho Kaisetsusho, 7th Ed.”, Tokyo, Hirokawa Shoten, 1999, D-661 D-667. (ISBN 4-567-01852-4)
- 例⑩ Ono, H. et al. eds., “Shokuhin Anzensei Jiten”, 1st Ed., Tokyo, Kyoritsu Shuppan, 1998, p. 246. (ISBN 320-06124-1)
- 例⑪ Kudo, I., Inoue, K., “Purosutaguranjin Kenkyuho, Jo-kan (Technique for the study of prostaglandin, volume 1)”, Yamamoto, S., Katori, M. eds., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, **1986**, p. 47-53. (ISBN 4-8079-1305-0)
- 例⑫ Derome, A. E. (Takeuchi, Y., Nosaka, A. trs.), “Modern NMR techniques for chemical research (Kagakusha No Tameno Saishin NMR Gaisetsu)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1991, p. 185. (ISBN 4-7598-0226-6)
- 例⑬ Ito, Y. ed. (Division of Food Chemistry, Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan supervised), “Nipponjin No Shokuhintenkabutsu 1-Nichi Sesshuryo Jittai Chosa Kenkyu (Studies on daily intake of food additives in Japanese 1976-1985)”, Tokyo, Shakai Hoken Shuppansha, 1988.
- 例⑭ Niwa, T. ed., “Saishin No Masusupektorometri (Modern mass spectrometry)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1995. (ISBN 4-7598-0282-7)
- 例⑮ Murota, S. ed., “Purosutaguranjin No Seikagaku (Biochemistry of prostaglandins)”, 1st Ed., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, 1982.
- 例⑯ 厚生省生活衛生局食品化学課 “第 2 版 食品中の食品添加物分析法” 2000, p. 320-322.
- 例⑰ 農業環境保全対策研究会編 “残留農薬基準ハンドブッケー作物・水質残留の分析法” 東京、化学工業日報社、1995, p. 406-410.
- 例⑱ 動物性食品の HACCP 研究班編 (厚生省生活衛生局乳肉衛生課監修) “HACCP: 衛生管理計画の作成と実践データ編” 東京、中央法規出版、1997, p. 148-152.
- 9) 官報、局長通知など
和文原稿では例⑲、⑳に従い引用する (英文にしない)。英文原稿では、例㉑～㉓を参考に引用する。
- 例⑲ 厚生省令第 50 号 (1995) “既存添加物名簿に関する省令” 平成 7 年 8 月 10 日。
- 例⑳ 厚生省生活衛生局長通知 “食品衛生法に基づく表示について” 平成 7 年 10 月 12 日、衛食第 186 号 (1995).
- 例㉑ Japan's Specifications and Standards for Food Additives, 7th Ed., Ministry of Health and Welfare, Japan (1999).

例② Ordinance No. 50 (Aug. 10, 1995), Ministry of Health and Welfare, Japan.

例③ Notification No. 186 (Oct. 12, 1995), Director-General of Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan.

- 10) 和文誌及び研究所報告のローマ字書きと欧文名（丸括弧内）の例を下記に示す。
- 分析化学：Bunseki Kagaku（なし）
- 栄養学雑誌：Eiyogaku Zasshi (The Japanese Journal of Nutrition)
- 医学と生物学：Igaku To Seibutsugaku (Medicine and Biology)
- 医学のあゆみ：Igaku No Ayumi (Journal of Clinical and Experimental Medicine)
- 化学と工業：Kagaku To Kogyo (Chemistry and Chemical Industry)
- 化学：Kagaku (Chemistry), (Kyoto) 化学 (Kyoto) と科学 (Tokyo) を区別するため所在地を記入
- 日本農芸化学会誌：Nippon Nogeikagaku Kaishi（なし）
- 応用薬理：Oyo Yakuri (Pharmacometrics)
- 生化学：Seikagaku（なし）
- 食品衛生研究：Shokuhin Eisei Kenkyu (Food Sanitation Research)
- 薬学雑誌：Yakugaku Zasshi (Journal of the Pharmaceutical Society of Japan)
- 国立医薬品食品衛生研究所報告：Kokuritsu Iyakuhin Shokuhin Eisei Kenkyusho Hokoku (Bulletin of National Institute of Health Sciences)
- 日本醤油研究所雑誌：Nippon Shoyu Kenkyusho Zasshi (Journal of the Japan Soy Sauce Research Institute)
- 埼玉県衛生研究所報：Saitamaken Eiseikenkyusho Ho (Annual Report of Saitama Institute of Public Health)
- 11) 私信、講演要旨集（一般講演、シンポジウムなどを含む）、インターネットホームページ、未発表のものは文献として引用しない。ただし脚注に記載することは妨げない。
- 12) 脚注は *1, *2, *3 により表し、出現したページの下部に番号順に列記する。

4 その他の留意事項

- 1) 簡単な化合物名や動植物名は、文部省学術用語審議会編 学術用語集によります。用語集に記載のないものについては、広く学術的に用いられている用語を用いて下さい。ただし、字数の多い化学名、酵素名、外国地名、外国人名、および学術的に欧文の方が理解を得やすい場合は欧文で記載して下さい。
- 2) 動植物名：片仮名書きとし、学名はイタリック体とします。ただし食品として用いる場合はこの限りではありませんが、動植物、食品名などを学名によらず英語名で図表などで一覧表としてデータと共に示す場合は必ず日本名を（ ）で併記して下さい。
- 3) その他ゴシック体（太い文字）、イタリック体（斜体）および学名などスモールキャピタルを必要とする場合は、その文字の下に朱書きでそれぞれ ~~~~~, _____ および _____ を記入して下さい。
- 4) J-Stage に掲載の都合上、外字フォントは使用できません。
- 5) 投稿原稿には、ページ番号に加え行番号を記載する。
- 6) 投稿規程全般について不明な点、特殊な要望のある場合は学会事務局にお問い合わせ下さい。

5 投稿の際の注意

- 1) ヒトを対象にした研究論文は、ヘルシンキ宣言（2008年改訂）の方針に沿い、必要な手続きを踏まえていなければならない。特に臨床サンプルを扱う場合には、原則的に所属機関の倫理委員会などの公的審査会にて認められた研究内容で、同意書等を取得した上で得たデータでなくてはならない。
- 2) 動物を対象にした研究論文は、所属機関で規程される実験動物に関する管理と使用に関するガイドラインに従った旨を明記する。

III 投稿の方法

- 1 投稿原稿正1部、副3部の計4部を下記宛先まで送付して下さい(副はコピー可)。投稿原稿は査読の便宜上 A4 用紙 1 ページにつき 40 字× 35 行を基本として打ち出して下さい。

宛先

〒 210-9501 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-26
国立医薬品食品衛生研究所 生薬部内
日本食品化学学会編集委員会
TEL: 044-270-6521 E-mail: skagaku@nihs.go.jp

- 2 投稿原稿在中と封筒に朱書きして下さい。
- 3 受理決定後、事務局から電子媒体(CD-R 又は USB 等)による原稿の提供を連絡致しますので、直ちに送付して下さい。この際原稿に意見を付す場合がありますので、電子媒体は修正の上で原稿(同様修正済み)と共に返送して下さい。電子媒体には使用したソフト、機種等の必要事項を記入した「ラベル」を貼って送付して下さい。

IV 掲載と費用

- 1 校正は初校、必要あれば二校を著者が行います。ただし校正時の加筆はご遠慮下さい。
- 2 掲載された論文については、下に定めた諸経費を請求します。
 - 1) 基準投稿料: 1 編につき個人会員 20,000 円, 法人会員および企業 40,000 円
 - 2) 規定頁(5 頁)を超過した場合は超過費を請求します。超過頁費(6,000 円/1 頁)は、19 巻 1 号掲載分より実施しています。
 - 3) カラー頁がある場合は実費を請求します。
 - 4) トレース: 実費を請求します。
 - 5) 別刷: 実費を請求します。
 - 6) pdf 作成: 基本作成費 1,000 円プラス 1 頁あたり 1,000 円
 - 7) 上記費用は投稿原稿掲載通知後、明細書により請求します。
- 3 掲載料の納入は原則として郵便振替をご利用下さい。(別刷代を除く)
郵便振替納入先: 口座 00900-3-233186
加入者名 日本食品化学学会事務局
(通信欄に送金内容を記入して下さい。)

V 付記

- 1 本誌に掲載された論文の著作権は、日本食品化学学会に属します。

日本食品化学学会編集委員会からのお知らせ

編集委員会（事務局）の移動

2021年度第一回理事会で、本年度中の編集委員長の交代が承認されたことにともない、これまで「国立医薬品食品衛生研究所生薬部内」にあった、日本食品化学学会編集委員会（事務局）を、2021年5月1日より、「星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内」に移動することになりました。従いまして、

A：2021年4月30日までの投稿は、従来通り、

〒210-9501 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-26 国立医薬品食品衛生研究所生薬部内 日本食品化学学会編集委員会 宛てで投稿いただきますが、

B：2021年5月1日からは、

〒142-8501 東京都品川区荏原2-4-41 星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内 日本食品化学学会編集委員会 宛てで投稿下さい。(e-mail: jpnjfc@gmail.com)

ただし、Aで投稿された論文等は、合田幸広現編集委員長の下で、最後まで審査が行われますので、問い合わせ並びに再投稿原稿等も、「国立医薬品食品衛生研究所生薬部内」宛てで、送付を御願いたします。

一方で、Bで投稿された論文等は、穂山浩現副編集委員長（新編集委員長）の下で、審査が開始されますので、問い合わせ並びに再投稿原稿等は、「星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内」宛てで、送付を御願いたします。

なお、2021年28巻2号までに掲載される論文等は、合田幸広現編集委員長の下での審査となり、同巻3号以降の論文は、穂山浩新編集委員長の下での審査として取り扱います。

投 稿 原 稿 の 表 紙

投稿原稿の種類	総説	論文	ノート	資料
投稿原稿の文字	和文	英文		

(提出原稿に対応するものを○で囲んで下さい。)

投稿年月日	西暦 年 月 日
-------	----------

論文等の表題 (和文及び英文)	
-----------------	--

著者名及び所属機関名 (和文及び英文)	
---------------------	--

キーワード (和文及び英文)	
----------------	--

ワープロの機種及び原稿に関する情報	ワープロの機種等必要事項：
	原稿： 枚 図： 枚 表： 枚 写真： 葉

連絡者の住所 (和文及び英文)	〒()
機 関 名 (和文及び英文)	
TEL・FAX	TEL FAX
連絡者の氏名 (和文及び英文)	

本研究内容は、日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約します。	
代表者署名	

連絡者の E-mail	
-------------	--

備考・関連事項など	
-----------	--

日本食品化学学会理事及び監事 (2020年1月1日～2021年12月31日)

理事長	小関 良宏	東京農工大学工学部生命工学科教授
副理事長	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所長
副理事長	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団理事長
理事	穂山 浩	星薬科大学薬学部教授
理事	井之上 浩一	立命館大学薬学部教授
理事	井上 健夫	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社取締役常務執行役員
理事	小川 久美子	国立医薬品食品衛生研究所病理部長
理事	奥村 克純	三重大学大学院生物資源学研究科教授
理事	日下部 哲也	独立行政法人医薬品医療機器総合機構国際業務調整役
理事	佐藤 恭子	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部長
理事	中江 大	東京農業大学応用生物科学部教授
理事	松浦 寿喜	武庫川女子大学生生活環境学部教授
理事	矢野 竹男	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科教授
理事	良永 裕子	麻布大学 生命・環境科学部教授
理事	鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科教授
監事	伊藤 美千穂	京都大学大学院 薬学研究科准教授
監事	尾崎 麻子	大阪健康安全基盤研究所 衛生化学部主幹研究員

日本食品化学学会編集委員会 (2020年1月1日～2021年12月31日)

編集委員長	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所長
副編集委員長	穂山 浩	星薬科大学薬学部教授
編集委員	石井 里枝	埼玉県衛生研究所副所長
編集委員	一色 賢司	一般財団法人日本食品分析センター学術顧問
編集委員	岡 尚男	金城学院大学消費生活科学研究所客員研究員
編集委員	小川 雅廣	香川大学農学部応用生物科学科教授
編集委員	小関 良宏	東京農工大学工学部生命工学科教授
編集委員	川原 信夫	公益財団法人高知県牧野記念財団理事長兼高知県立牧野植物園長
編集委員	魏 民	大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学准教授
編集委員	橘田 和美	農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門食品分析研究領域信頼性評価ユニット長
編集委員	庄司 俊彦	農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門食品健康機能研究領域食品機能評価ユニット
編集委員	白杉 直子	神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間環境学専攻環境学研究室教授
編集委員	田口 貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部室長
編集委員	田中 卓二	岐阜市民病院病理診断科部長・病理診断研究センター長
編集委員	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団理事長
編集委員	手島 玲子	岡山理科大学獣医学部教授
編集委員	中江 大	東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学食品安全評価学研究室教授
編集委員	西島 基弘	実践女子大学生生活科学部名誉教授
編集委員	林 新茂	東京農工大学農学部客員教授
編集委員	増田 修一	静岡県立大学食品栄養科学部食品衛生学研究室教授
編集委員	松藤 寛	日本大学生物資源科学部食品生命学科教授
編集委員	水上 元	元高知県立牧野植物園園長
編集委員	三宅 義明	愛知淑徳大学健康医療科学部健康栄養学教授
編集委員	森川 敏生	近畿大学薬学総合研究所教授
編集委員	矢野 竹男	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
編集委員	吉岡 靖雄	大阪大学微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所特任教授
編集委員	良永 裕子	麻布大学生命・環境科学部食品生命科学科教授

複写複製および転載複製をご希望の方へ

本会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会 (<https://www.jaacc.org/>) が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。尚、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複製許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。社外頒布用の複写は許諾が必要です。また、著者や非営利団体に該当する方が転載利用の申請をされる場合には、本会に直接お問い合わせください。

権利委託先: 一般社団法人 学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F

FAX: 03-3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp

著作物の引用、翻訳等に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接、日本食品化学学会へお問い合わせください。

Reprographic Reproduction outside Japan

The Japanese Society of Food Chemistry authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JAC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JAC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations. You may reuse a content for non-commercial use, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance. Obtaining permission to quote, translate, etc., please also contact us directly.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address: 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

Website: <http://www.jaacc.jp/>

E-mail: info@jaacc.jp FAX: +81-33475-5619

日本食品化学学会誌 第28巻第1号

2021年4月20日発行 [定価2000円] (会員無料)

編集兼発行人

日本食品化学学会

事務局 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学薬学部・大学院薬学研究科 臨床分析化学研究室

e-mail: shokuhinkagaku@jsfcs.org ホームページ: <http://www.jsfcs.org/>

印刷所

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2 株式会社 アビックス

©2021 Japanese Society of Food Chemistry